【書評・紹介】

加藤博文・若園雄志郎編『いま学ぶ アイヌ民族の歴史』

（東京，山川出版社，2018 年 4 月，B5 版，vi＋155 頁，2,000 円＋税）

中 村　和 之

本書は、高校生以上の一般読者を対象とした、アイヌ民族の歴史の概説書である。はじめに、本書の構成を以下に示す。

第 1 部　アイヌ形成に至る歴史
　第 1 章　人類史からアイヌ史を位置づける
　第 2 章　北海道島における集団形成の歴史
第 2 部　北海道島におけるアイヌの形成
　第 1 章　東アジアのなかのアイヌ
　第 2 章　アイヌの交易と抵抗
第 3 部　近世国家とアイヌ
　第 1 章　近世世界とアイヌ
　第 2 章　日本の対外政策とアイヌ
第 4 部　近代国家の成立とアイヌ民族支配
　第 1 章　近代国家の形成と民族支配
　第 2 章　内国植民地化の進む北海道
　第 3 章　明治立憲国家とアイヌ民族
　第 4 章　近代化とアイヌ民族
第 5 部　大正・昭和初期の日本とアイヌ民族
　第 1 章　植民地政策の展開とアイヌ民族
　第 2 章　北海道旧土人保護法と戦時体制
第 6 部　戦後民主国家の成立とアイヌ民族
　第 1 章　戦後のアイヌ民族の運動
　第 2 章　アイヌ民族、権利獲得への道
付録　アイヌ文化関連施設
索引

本書のように高校生や大学生を読者にした概説書は、これまで類例がない。また本書は、高等学校や大学での講義のテキストに利用されることも想定した編集になっているという特徴がある。ふつう、小学校から高等学校までの初等・中東教育で教科書という場合には、文部科学省検定教科書を指すことが多いので、以下、本稿では授業書という表現を用いることにしたい。

小学生・中学生の授業書としては、『アイヌ民族：歴史と現在－未来を共に生きるために－』（アイヌ文化振興・研究推進機構、2001 年）があり小学生用と中学生用が刊行さ

れている。2008 年からは改訂版が出版されており、これが現行の版である。この版をもとにした、教師用の指導書として『アイヌ民族：歴史と現在－未来を共に生きるために－【教師用指導書】』（アイヌ文化振興・研究推進機構、2010 年）がある。このように、小学生・中学生用の授業書は刊行されているが、高校生以上を対象とする授業書はなかった。本書の刊行はその欠を補うという意義もある。

本書は、本格的な授業書としては初めてのものであるが、本書に先行する授業書が全くなかったわけではない。

1. 北海道教育庁生涯学習部学校教育課編『高等学校教育指導資料 アイヌ民族に関する指導の手引き』北海道教育庁生涯学習部学校教育課、1992 年.
2. 田端宏・桑原真人監修『アイヌ民族の歴史と文化－教育指導の手引』山川出版社、2000 年.

1 は、授業の教材としてそのまま生徒に配布できるように、見開き 2 頁でひとつのテーマが完結するように編集した章がある。アイヌ史の原始・古代から始まって、通史的に授業が展開できるように配慮されている。また 2 は、章ごとに概観と用語解説が載せられ、さらに資料があげられている。授業者が実際の授業に参照できるように配慮されているが、あくまでも教師のための指導書であり、授業に使うためには教師がこの指導書をもとに手を加えなければならないという限界がある。

本書を通読して、評者が強く印象づけられたのは、近現代史にあたる第 4, 5, 6 部の叙述の充実ぶりである。これには、榎森進『アイヌ民族の歴史』（草風館、2007 年）などを代表とする、近年の研究業績の蓄積が下支えとして存在すると思われるが、あわせて各執筆者の努力に敬意を表したい。

先行する授業書と比較すると、1 は、通史的に授業が展開できるような構成をめざしてはいるが、歴史の教材としては「近代の北海道とアイヌ民族」で終わっている。その後は、「政治・経済」の教材として、アイヌ民族の権利獲得のための動きを紹介して近現代史の教材に代えるということになっている。2 は、「6.アイヌ民族の復権と自立」、「7.アイヌ民族の伝統的な文化」、「8.近現代のアイヌ文化と権利獲得への動き」という構成を取った関係もあり、伝統的なアイヌ文化だけがアイヌ文化ではないということが強調され、通史的な歴史叙述としては、つながりが薄いという問題点を抱えていたように思う。これに対して本書は、第二次世界大戦後のアイヌ民族の歴史について、史料をあげつつ叙述しており、今後の授業実践に資するところが大きいと考える。

また第 1 部は、人類史という巨視的な視点からアイヌの形成という問題をわかりやすく叙述している。北東アジアの考古学の情報も絡めて、専門的な内容がわかりやすく叙述されており、歴史の教員の参考書としても有益なのではないかと考える。

最後に、本書では項目ごとに「考えてみよう！」という質問が設定されており、暗記だけではない歴史学習を試みているところも、本書の特徴である。

なお、『歴史と地理』（第 717 号、2018 年 9 月、49-53 頁）に、紀伊國 薫氏による書評が発表されている。高等学校の教員としての視点から、丁寧な紹介がなされている。あわせてご覧いただきたい。

（なかむら・かずゆき／函館工業高等専門学校）